# 21.　年末出荷可能な大果で種無しのカンキツ新品種「安芸まりん」を品種登録申請

## 1. 背景とねらい

広島県における年末出荷用のカンキツ類は，温州ミカンが大半を占め，市場価格の低迷の影響が顕著である。このため，年内出荷が可能で，かつ，外観が温州ミカンと異なる新しいカンキツ類に対する生産者の期待が強い。そこで，大果（200g以上）で糖度が高く（11度以上），12月に酸度が1%前後となり，年末出荷が可能なカンキツ新品種の育成を行う。

## 2. 成果の内容

1）「安芸まりん」は，1987 年に種子親「清見」（「宮川早生」×「トロビタオレンジ」）に花粉親「サザンレッド」を交配して育成し，1996 年に選抜した個体である。

2）育成地（東広島市安芸津町）における満開期は5月第4半旬で，着色は11月中旬から始まり，12月第２半旬に完全着色となる（写真1）。成熟期は12月下旬である。

3）果実の大きさは，成熟期が同時期の「ミホコール」や「ありあけ」に比べて大きく，果実重は約 240g で，横径は約 82mm である（表 1）。

4）果形指数は，「ミホコール」に比べて腰高であるが，「ありあけ」に比べて低く偏平であり，扁球の果実である（表1）。

5）収穫時の果実糖度は11.6～11.7°Brix，酸度は1.08～1.13%で，年によって多少の変動はあるものの，「ミホコール」と「ありあけ」に比べて酸度はやや高く，糖度は同等以上で食味は良好（甘味比10以上）である（表1）。

6）果皮は濃橙色で，果汁は多く，じょうのう膜の硬さは中程度で，種子数が極めて少ない（表２）。

7）樹勢は中程度で，枝梢にトゲを有するが，結実後年数を経過すると徐々に減少する（表2）。

8）以上の結果より，「安芸まりん」は大果で糖度が高く，12 月に酸度が 1%前後となり，種がない年末出荷が可能なカンキツ新品種である。

## 3. 利用上の留意点

1）平成25年までは広島県内だけで普及を図る。

2）中晩柑の防除基準に従ってかいよう病の防除を行う。

3）平成20年８月に品種登録出願し20年10月28日に出願公表された。

（果樹研究部）

## 4. 具体的データ

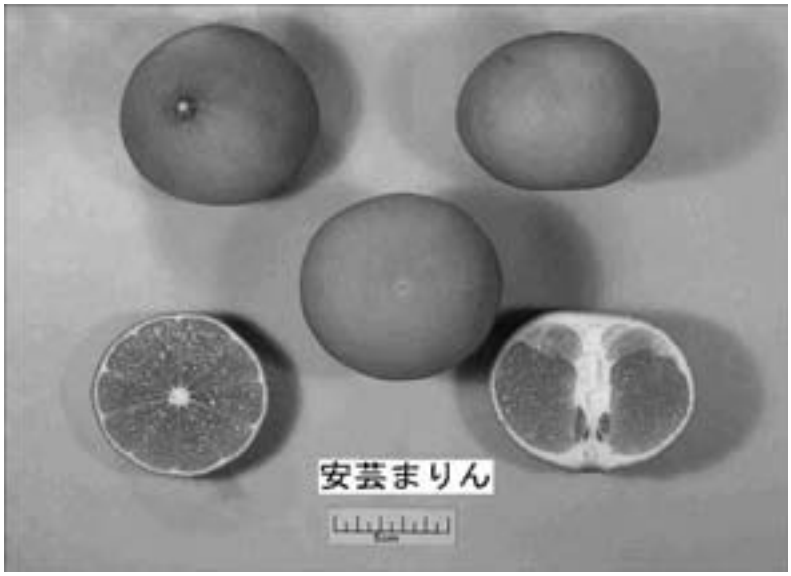


図1「安芸まりん」の果実

表1「安芸まりん」の果実品質

| 品　　種 | 年次[z] | 果実重 (g) | 横径 (mm) | 縦径 (mm) | 果形指数[y] | 着色歩合[x] | 糖度 (°Brix) | 酸度 (%) | 甘味比 (糖度/酸度) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安芸まりん | 2000 | 248 | 82.0 | 75.5 | 108.6 | 10 | 11.7 | 1.13 | 10.4 |
| | 2001 | 237 | 81.6 | 71.2 | 114.6 | 10 | 11.6 | 1.08 | 10.8 |
| ミホコール（対照） | 2000 | 275 | 89.0 | 70.0 | 127.1 | 7.6 | 10.6 | 0.88 | 12.0 |
| | 2001 | 147 | 71.4 | 53.2 | 134.1 | 10 | 12.2 | 0.80 | 15.2 |
| ありあけ（対照） | 2000 | 153 | 68.3 | 66.8 | 102.2 | 9.4 | 10.4 | 0.85 | 12.2 |
| | 2001 | 211 | 75.3 | 75.3 | 100.0 | 10 | 12.3 | 0.81 | 15.2 |

[z] 調査日は，2000年12月1日，2001年12月20日　　[y] (横径/縦径)×100

[x] 着色歩合は，数値が高いほど着色が進んでいることを示す(10は，完全着色)

2000年に「安芸まりん」は「瀬戸温州」に高接ぎ6年生，「ミホコール」は高接ぎ5年生，「ありあけ」は13年生

表2「安芸まりん」の樹および果実特性

| 品　　種 | 樹勢 | トゲの発生率 (%) | 色 | 粗滑 | 剥皮性 | 果汁の多少 | じょうのう膜の硬さ | 種子数 (個) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安芸まりん | 中 | 少(6) | 濃橙 | やや滑 | 中 | 多 | 中 | 0.5 |
| ミホコール（対照） | 弱 | 無(0) | 赤橙 | 滑 | やや難 | 多 | 硬 | 1.3 |
| ありあけ（対照） | 中 | 中(28) | 橙 | 中 | やや易 | 中～多 | 中 | 0.3 |